



1. うだる暑さをものともせず、全身で太鼓を味わう！ / 2. 4年ぶりに姉妹都市、友好交流都市の皆さんを迎えてのステージ / 3. トークショーで魅力を語る須田市長と伊達なふるさと大使の長沢裕さん、小林アリスさん / 4. 全力を出し尽くした！芝生に大の字で転がる叩き手の姿も見られた

「伊達の夏を締めくくる太鼓の音」

8月19日㊤、20日㊤に「霊山太鼓まつり」が開催されました。このうち20日㊤は、須田市長の陣太鼓で幕を開けました。立っているだけでも汗が吹き出す暑さの中、打ち手たちはフラフラになりながらも太鼓の音色を会場いっぱいに響かせました。全保存会が一齐に打ち鳴らす「同時打ち」では、「自分たちが主役！」といった様子で鮮やかなバチさばきを披露し合い、会場からも拍手が起こっていました。祭りの終盤に降り出したスコールのような大雨さえも味方につけ、ずぶ濡れになりながら、熱く、熱く盛り上がっていました。



市長コラム 第58回 「東京ドームで 福島県伊達市デー」

須田博行

伊達市の魅力を発信するため、市では、首都圏各所でPRイベントを開催したり、参加したりしてきました。東京銀座でのあんぱ栴づくり、東京ドームでのふるさと祭りへの出店、市場や量販店でのトップセールスの実施、企業版マルシェの開催などなど。

そして今回、東京ドームの巨人対中日戦で「福島県伊達市デー」を初めて開催しました（内容は13ページをご覧ください）。

満員の観客から一齐に注目される中、オープニングセレモニーが始まります。両チームに伊達市特産のぶどうを贈るにあたり、場内放送で、『試合に先立ちまして、福島県伊達市よりシャインマスカットと巨峰が、両チームに40キログラムずつ贈呈されます。』とアナウンスされると、満員のスタンドから一齐に「おー」というどよめきと、「食べたーい」という大きな声が響き渡ります。駆けつけてくれた伊達なふるさと大使の長沢裕さん、小林アリスさんとともにその

迫力と歓声に感激してしまいました（ちなみに、伊達市はシャインマスカットの生産量県内一です）。そして、もっとすごかったのが、長沢裕さんの始球式でのノーバウンド投球です。ブルペンでの練習では、10球中ホームベースまで届いたのは2球だけだったそうで、長沢さんの本番での強さには驚きです。ハイタッチで勝利投手をみんなで迎えました。

今回の「伊達市デー」では、東京ドームを埋め尽くした観客に本市の魅力を広く発信することができたと思っています。

ところで、バックスクリーンのオーロラビジョンは、日本最大級の横幅125メートルのLEDビジョンで、そこに映し出された伊達市の大自然は圧巻でした。都会にはないすばらしい財産を伊達市は持っているんだと改めて確信しました。これからも、伊達市の美しい田園、里山、緑などを守り、そして創り出していきたいと思っています。